

会員の活動報告

(2022年11月～2023年10月)

伊川 徹

- スール・ボン駄目よん？（「別冊シャンソン・フランセーズ研究 第3号」、シャンソン研究会電子版、pp.3～5、2023年5月）
- ドイツ語俳句について（竹田賢治氏による6回連続講座「導入と概観」「受容の歴史」「現代ドイツ語俳句の具体例」「オーストリア俳句」「ドイツ語による連句」「独訳された現代日本の俳句」）伊川 徹主宰「西欧文化楽々講座CACO」（神戸国際会館8階セミナー・ハウス）2023年5月～7月
- 秋の季節に文学を！（和田 渡氏による6回連続講座「「古い」を愛するフランス人」「ギリシア喜劇とモラリストたち」「楽しいモンテニュ」「アランの幸福論」「ゲーテの文学と芸術」「ヘッセと老人像」）伊川 徹主宰「西欧文化楽々講座CACO」（神戸国際会館8階セミナー・ハウス）2023年9月～11月

伊藤 誠宏

- Vaugelasが留意したMalherbeの使用語 — Vaugelas, *Nouvelles remarques sur la langue française*において —（『仏語仏文学』第49号、2023年3月）

津川 廣行

- 低い月、高い月 — 月の文学、物理の月（藤原書店、2023年9月）

友谷 知己

- 『ル・シッド』に於ける恋愛の様態 — 死者とヒロインの造形 —（『仏語仏文学』第49号、2023年3月）
- ディスカッション「過渡期の都市計画を日本で進めるには？」越智郁乃、川崎修良、長嶋由紀子、Emmanuelle Gangloff 川崎修・越智郁乃編『文化プロジェクトによる地域づくりのこれから 都市の未低利用地の暫定利用に向けた日仏の眼差しの比較』（翻訳 大阪公立大学都市科学・防災研究センター 2023年3月）
- エマニュエル・ガングロフ「レンヌ市とナント市における過渡期の都市計画 — 文化プロジェクトは都市空間の変容にどう貢献できるか —」川崎修・越智郁乃編『文化プロジェクトによる地域づくりのこれから 都市の未低利用地の暫定利用に

向けた日仏の眼差しの比較』（翻訳 大阪公立大学都市科学・防災研究センター
2023年3月）

リコ-ヨコヤマ・アドリアナ

- Le prix Nobel de littérature 2022 : Annie Ernaux, une lauréate objet de toutes les passions (『仏語仏文学』第49号、2023年3月)
- La difficulté de faire face à la réalité des crimes contre les minorités : une lutte sans fin : le cas des Juifs de France pendant la Seconde Guerre mondiale [マイノリティに対する犯罪の現実を直視することの難しさ—終わりのない闘い：第二次大戦中のフランスのユダヤ人の場合]
通 訳：友谷知己（文学部教授）（人権問題研究所、第7回研究学習会 2022年12月）

修士論文題目

2020年3月

名越 めぐ

- 日本のビデオゲーム・マンガのフランス語版における翻訳の問題

後 記

『仏語仏文学』第50号をお届けします。1960（昭和35）年、本誌第1号が世に出てから、実に64年の歳月を閲しております。関大仏文の長い伝統を築かれた先輩方の志をうけ、節目の本号にも会員から寄せられた力作を掲載することができました。執筆者の皆様にも、また刊行にあたってご協力くださった方々に、厚く御礼申し上げます。

さて、50号という節目ですので、本誌に関して恐らく今では忘れられていることをひとつ、ここに記しておきたいと思います。本誌の題字は、元学長・岡野留次郎先生（関大哲学科名誉教授）が書かれたものです。本誌第1号の後記では三木治先生が、能筆で知られた岡野先生が病身を押して揮毫くださったことに深甚なる謝意を表しておられます。皆様、『仏語仏文学』の表紙を、今回は少しじっくり、ご覧ください。

今年度の本学会の年次大会（研究発表会・総会）は、2019年度以来4年振りに対面形式で実施することができました。2023年12月16日（土）午後4時20分から、千里山キャンパス第1学舎1号館実験実習・語学系教室にて、スタンダール研究の碩学柏木治先生によるsublimeな研究発表がありました。以下に発表題目を記載しておきます。

「1815年のロッシニスト」——スタンダールと「崇高」

本学名誉教授 柏木 治 氏

引き続き総会では、本学会の会則変更が承されました。旧来の専修名称を現状に合わせた、軽微な変更です。本号最終頁にてご確認ください。

総会終了後は、ささやかな懇親会を開催いたしました。やや手狭ながらヨーロッパ文化専修合同研究室に参集した懐かしい顔ぶれで、和やかに盃を傾けて、4年振りの再会を祝いました。来年度の年次大会でも、ぜひまたこうした機会を設け、会員間の親睦を深めたいと思います。

また今年度は、惜しまれつつ退職なされた奥純先生に代わりフランス近現代文学を教育・研究する人材として、塚島真実先生が文学部に准教授として着任されました。新進気鋭のランボー研究者である塚島先生が、関大仏文という新天地でも旺盛な研究活動を展開されることが期待されます。

それでは、末尾ながら、会員各位のますますのご活躍をお祈り申し上げます。

（友谷 知己）

関西大学フランス語フランス文学会々則

1. 本会は関西大学フランス語フランス文学会 (Société de langue et littérature françaises de l'Université Kansai/Kansai University Society for the Study of French Language and Literature) と称し、事務所を関西大学文学部ヨーロッパ文化専修合同研究室に置く。
2. 本会はフランス語フランス文学に関する研究および発表と、これに関連する事業を行なうことを目的とする。
3. 本会は次の事業を行なう。
 1. 機関誌「仏語 仏文学」(Bulletin de la Société de langue et littérature françaises de l'Université Kansai/The Bulletin of Kansai University Society for the Study of French Language and Literature) およびその他の出版物の刊行。
 2. 研究会・講演会の開催。
 3. その他本会の目的にかなう事業。
4. 本会はその目的に賛同する次の会員をもって構成する。
 1. 関西大学文学部総合人文学科ヨーロッパ文化専修フランス言語文化コース専任教員。
 2. 関西大学大学院文学研究科フランス文学専攻・専修学生、およびその修了者 (旧学科名称時の大学院修了者を含む)。
 3. 関西大学文学部総合人文学科ヨーロッパ文化専修フランス言語文化コース学生、およびその卒業生 (旧学科名称時の学部卒業生を含む)。
 4. 本会の趣旨に賛同し、入会を認められた者。
5. 本会の目的を達成するため会費を納入する。
6. 本会に次の役員を置く。その任期は1年とし、重任を妨げない。
 1. 会 長 1 名
 2. 委 員 若干名
 - a. 企画委員
 - b. 編集委員
 - c. 庶務・会計委員会長と委員によって委員会を構成し本会の実務の運用に当り会長はこれを統括する。
7. 会員は機関誌「仏語 仏文学」等の配布をうける。また会員は機関誌への投稿、および本会の行なう事業に参加することができる。なお、投稿論文は、会則6に定める委員会の議を経て掲載される。
8. 本会の重要事項は総会の議決による。

(2024年4月1日から施行)

仏語 仏文学 第50号

2024年3月15日 発行

編集・発行 関西大学フランス語フランス文学会
吹田市山手町 関西大学
ヨーロッパ文化専修合同研究室
印刷所 株式会社 遊文舎
大阪市淀川区木川東4丁目17番31号
電話 (06) 6304-9325 (代)

(非売品)